時間を守ろう

困ります、役に立たない消火栓

部落懇談会で強く要望ー金池

横山村長就任後「住民の生の声」を村政に反映させるとして、村政懇談会が開らかれ、住民のみなさんから数多くの要望が寄せられた。

これらの要望に対して、早急に対策が求められるものは対策を講じ、将来において講じられるべきものは検討されているが昨年六月八日金池部落で開らかれた席上、部落を代表した住民が要望として

「私達の部落は水道の圧が低く、水は充分に出ない。また消火栓はあっても使用できない。イザという場合はどうするのか？この問題は水道の給水開始と同時に対策を訴えていた。村当局は部落偏重的村行政を改めてもらいたい……」

この要望に対して村長は「私は陽のあたる場所やあたらない場所のない村政をやっていきたい。あくまで住民の生の声を反映した。へだたりのない村政をやっていきたい。要望の件については、役場に帰りよく研究し、次の懇談会までには金池部落住民の満足していただくような対策を講じたい」……と約束して帰庁。

8月からふんだんに出ます"水"

「次の懇談会まで必ず解決する」

……と約束した村長

さっそく、数ケ月に及ぶ綿密な現地調査が行なわれた。その結果、水圧のアップ施設が作られることになった。この施設は、金池部落裏手の石戸山中腹に五〇tの水量を貯水できる防火調整池を工事費百八十五万を投入、七月三十一日迄に完成させる、この施設から落差十七メートルを利用し増圧しようとするもので、金池部落戸数四〇、給水人口一八四名がかかえていた水の不足の解消と、いままで役に立たない消火栓の名も返上される。さらにこのパイプで、石瀬部落にも給水され石瀬部落民のよろこびも大きい。

金池部落住民の水道の水が出ないという問題は生活に直接結びついたことだけに数年来強く要望されていたことが、部落懇談会開催によって解決されただけに、「村長は今後も積極的に住民と話し合い住民の声を吸収して、村行政を進めてほしい」と、訴えられていた。」

ゴミを出すとき

袋に詰めて収集日の朝

ガラス、あきカンなどは別の日に

▼普通のゴミは

ゴミは袋詰で、口をしばり、近所まとめて一定の場所に収集日の朝出して下さい。集積の場所に何日も前から出している家庭を見かけますが、不衛生で、村の美観をそこね、近所の迷惑になります。

最近、ゴミ容器に、リンゴ箱を利用する家庭がありますが、クギやとげで作業員がケガします。また重くて持ちあがらないような入れものも困ります。作業能率も低下します。

▼キケン物はこのように

ゴミと同じようにつめて口をしっかり締め、決められた場所に出して下さい。収集日前に出しますと、危険です。

▼袋の中に入れてはいけないもの

集めたゴミは袋ごと焼却しますので、石ころ、どろ、灰、ガラスかけ、あきびん、あきカン、針金など燃えないもの、ばく発するおそれのある、電球、ヘアスプレーのあき容器、猟銃のやっきょうなどは、ふつうのゴミ袋に入れないで下さい。

みなさんのアイデア募集しています

"融和と前進"第二回村民運動会を昨年よりいっそうたのしい大会にするため村民のみなさんのアイデアを求めています。電話でも可、大会事務局へ。

米多収穫競作会は

多収賞と奨励品種賞の

二部門で

今年の米つくり岩室村一位をきめる米多収穫競作会は多収賞と奨励品種の二部門に分けて行ないます。

第一次審査は農協管内毎に八月二十九日に一坪刈りを行ないます。

二次審査は九月一日、各農協から選抜された多収部門各十点、奨励品種部門各十点、合計四十点を三坪刈して順位をきめます。

多収賞は品種を問いませんが奨励品種の方は越路早生、八千穂、ホウネンワセの三品種です。

入賞は各部門毎に一等一点、二等二点、三等三点で、そのほかに八百硈以上のものには八百硈賞が授与されます。

坪刈りの期日や二次審査の出品点数は、今後の気象により多少の変更もあります。

この多収穫競作会は県と新潟日報の「こがね賞」につながり村の最多収者には県知事賞と記念品が贈られます。

今年も昨年以上の好成績が出ることを期待しています。

昭和四十三年度米多収穫競作会成績

（十位まで）

八三一キロ	大関洋一	（高橋）
八一九キロ	大岩　仁	（原）
八〇四キロ	遠藤福太郎	（夏井）
八〇三キロ	難波　保	（栄）
七八七キロ	川上作栄	（富岡）
七八六キロ	小林戸七	（猿ケ瀬）
七七九キロ	長谷川司	（津雲田）
七七八キロ	長谷川秀雄	（津雲田）
七七七キロ	萩野佐七	（北野）
七七三キロ	亀山正信	（原）

村長雑感

横山喜八郎

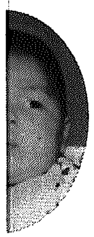
災害は忘れた頃やってくるという諺がありますが、愈々梅雨の時季、何時どの様な災害が我々の平和な里にやってくるかわからない。

過去数百年の歴史にも之等が事実として明確にうたわれて居るを否定する事ができない。

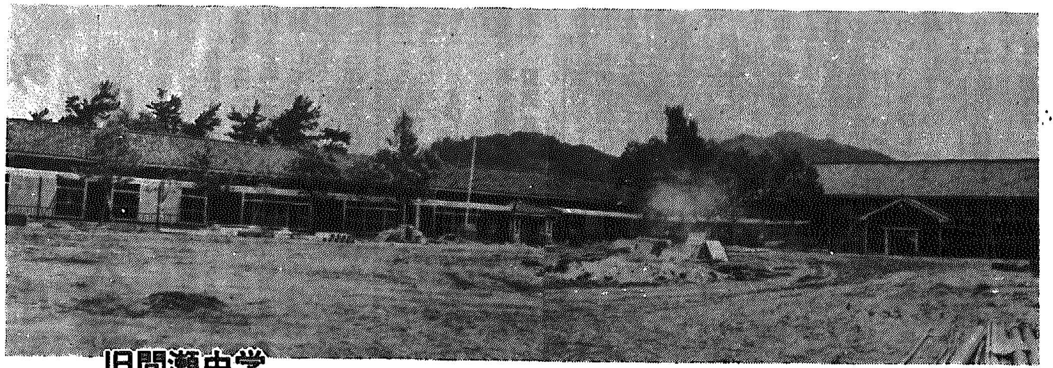
集中豪雨は特に多宝弥彦の連山がやせ山であり一挙に流出が考えられるので、先年から特に意を用い樋曽の払川石瀬の茶ヤ川、金池の藤内川等の検討をして来ましたが、やっと災害工事として小工事を二、三ヵ所施工した程度であります。けれども特に樋曽払川の改修改良は早急に進めて行く積りであります。

又、弥彦村地籍である藤内川左岸は幾度となく豪雨の被害を受け関係金池農家の皆さんには申訳ありませんが、昨年来県土木部及び弥彦村との話し合いに依り抜本的改修が施工されつつある。

最近は社会環境の加速度的発展に依り、道路改良に其の主力をおき稍々もすれば小河川の改良がおき去りにされようとして居る現在、私共は災害の恐しさを再認識し事前に本村として災害から守ろうとする意欲に燃えて居るけれども更に地域の皆さん方の理解と協力も絶対な必須要件である事を忘れてもらいたくないものであります。



先月号「おめでたおくやみ」欄に誤植がありましたのでつぎのとおり訂正します。



旧間瀬中学

海の家"七浦荘"としてオープン

「大衆に愛される村」づくりの施設に変る間中——海を持たない県や，山間地の農村の子供に喜こばれることだろう——

統合中学建設によって、廃校となっていた間瀬中学校は、このほど、新潟県生命共済農業協同組合連合会（会長理事、内山清一朗）によって"海の家七浦荘"と命名され七月一日より、オープンされることになった。

この間中は、柏原愛之助が間瀬村第七代村長就任当時、村の将来を思慮し原野を開拓、植林を広く村民に進めた。昭和二十五年、この成長した木を伐採して建設されたもので、意義深い校舎であった。

村もこの祖先の汗の結晶でできた学校の転用については慎重に協議されて、大衆に愛される公共性に富んだ事業とされ、海の家として転用がきまったもの。

県の生命共済連は改修予算二千万円を投入して約二万五百平方メートルの敷地内の、木造平屋建校舎（千六十二平方メートル）を宿泊五十四名収容可能の十六畳三室、十二畳一室、八畳六室、研修室二十五名収容や談話室に改造。

屋内体育館（六百二十七平方メートル）は大ホールとされ、夏は日本海の雄大なる風景と波静かで遠浅な海岸で若人たちの健康増進に大いに利用されることが待たれている。

特に、海を持たない県や山間地の農村の子供達の臨海学校施設に利用されよろこばれることだろう。

また将来、農協の職員を養成するために「農協職員研修大学校」をここに設置する構想もえがかれており、間瀬の飛躍に一段と拍車がかけられているようだ。

使用料金はつぎのとおり。

日帰（大ホール使用）
大人　一五〇円
小人　七〇円
団体（三〇人以上）　一〇〇円
研修室利用料　一、〇〇〇円
宿泊　大人　三〇〇円
小人　二〇〇円
学童団体二〇〇円と格安
照会は各農協へ

農業共済

昭和44年産

水稲共済掛金事務費

賦課金きまる

◎水稲共済掛金の基礎となる単位当り共済金額及び基準収穫量は、共済事業運営協議会で補償の充実をはかるため単位当り共済金額を前年より十円引上げてキログラム当り六〇円とすることにし、去る三月十日の村議会で原案どおり議決されました。基準収穫量は損害評価会で、県の指示収量、本村の生産量、その他統計資料により検討の結果、十アール当り五四〇キログラムと決定されました。これによって農家の皆さんの負担となる水稲共済掛金は次のようになります。

基準収穫量	引受割合	引受収量	kg当り共済金額	10a当り共済金額	掛金率	農家負担共済掛金
kg	%	kg	円	円	%	円
540 ×	70＝	378 ×	60	＝22,680 ×	0.8143＝	184.68

十アール当り農家負担共済掛金は約一八四円となります。

このようにして加入農家から納入していただいた共済掛金は、このほかに国が負担する共済掛金の一部が交付されるので、これと併せて村に備蓄され被害を受けた農家の共済金支払に充てられます。共済金を支払った後の残額は、決算で剰余金として各種の積立金に積立られて、共済金の支払に不足を生じた場合、あるいは無被害農家へ支払う無事戻金の財源に充てることになります。

◎事務費賦課金も共済掛金といっしょに納入願うことになりますが、事業運営経費の一部として共済事業運営協議会及び村議会を経て、前年同額の十アール当り六〇円に決定されましたが、加入者割は賦課しません。この水稲共済掛金と事務費賦課金は、来る七月末日を納期限として七月中旬に部落区長、農区長さんをつうじて納入依頼書をお届けするよう予定していますので、よろしく御協力下さるようお願いいたします。

◎無事戻金の支払

無被害農家に支払っている無事戻金が最近の被害状況により、共済金が支払われる農家が少ないため年々増加しています。四十四年度の支払対象は四十一～四十三年度の三年間となります。支払総額は八一二千円、支払戸数八〇〇戸となりました。昨年まで農協口座振込支払をしてきましたが、本年度は農家が負担する共済掛金と相殺することにしましたので、共済掛金納入通知書に支払無事戻金額を明記して共済掛金額から差引支払としますので、お含みおき下さるようお願いいたします。

共済事業についてお気付の点がありましたら役場農政課へ御連絡下さい。

私の声

北海道釧路市

柏木　五太郎

①村に望む

東京在住四十年、間瀬戦後七年、現在釧路十年、変転極りない私が村に望むことは無理ですが、いつ帰ってもかわらない石瀬峠を切り開き岩室本村、弥彦、吉田とをはばたく道路にして交流を第一として、それからやれ温泉、それ海水浴と自然的に繁栄すると思います。もっとも国破れて山河ありと申すから山道も大切である事と思います。

②10年後の岩室村はこう変る

今までの村とはことなり、すごくよくなるでしょうが、これもいろいろ予算関係のある事で、十年位はすぐ経過します。私が釧路に来て十一年の年月です。十年前は茫洋たる海原の如き無限の広野でしたが、今も何等変っては居りません故、我岩室村は家も多く建ち商業地の盛り上りと湯の町のよくなる事と思います。